



アレルギー疾患医療拠点病院に指定されました

アレルギーセンター センター長 **もりた えいしん**
森田 栄伸

アレルギー疾患対策基本法が平成26年に成立して以来、国はアレルギー疾患について国民が等しく適切な医療を受けることができるよう、アレルギー疾患に対する医療提供体制の整備を進めています。その一環として各都道府県はアレルギー疾患医療連絡協議会を設置して、アレルギー疾患医療拠点病院を指定するよう指導されています。島根県でも、平成30年度に島根県アレルギー疾患医療連絡協議会が設置され、医療体制の整備が行われています。

その第一歩として、平成31年3月1日に当院がアレルギー疾患医療拠点病院に指定されました(図1)。これまで当院は、消化器内科、呼吸器・化学療法内科、小児科、皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科が連携してアレルギーセンターを設置し、アレルギー疾患の患者さんを横断的に診療できる体制を整備しております。今後は、当院を受診されたアレルギー疾患患者さんの診療のみならず、行政、県内の医療施設や薬局、学校、保健所などと連携して(図2)、県民の皆様におけるアレルギー疾患に関する知識の普及、島根県全体のアレルギー疾患診療のレベル向上と均てん化、アレルギー疾患に関する調査や研究に中心的な役割を果たして参ります。

図1

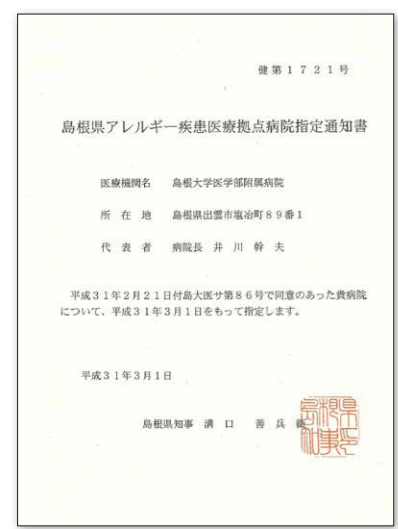
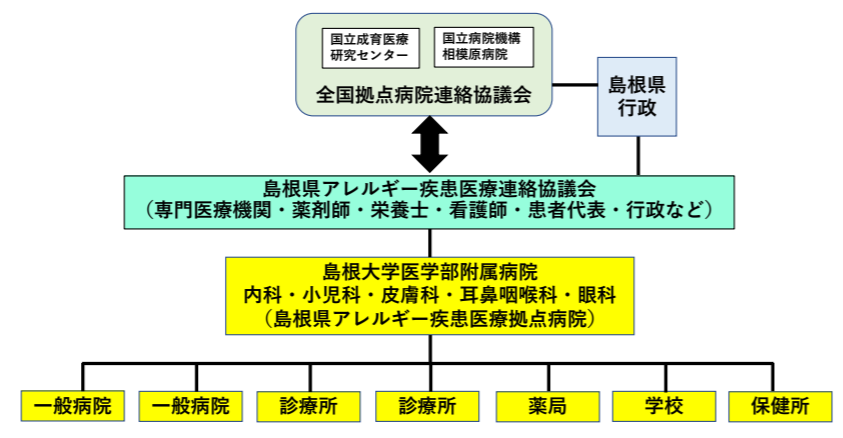


図2



アレルギー疾患対策基本法に基づく島根県のアレルギー医療提供連携体制図

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

4月15日~5月14日 対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
4/18(木) 18:30~19:30	2019年度 臨床研究・統計セミナー 「研究の種類と治療開発のステップ」 島根大学医学部附属病院 臨床研究センター 教授 大野 智	みらい棟4階ギャラクシー	医療 本学	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



NEWS

CONTENTS

- ・病院長挨拶
- ・アレルギー疾患医療拠点病院に指定されました
- ・島根大学医学部附属病院医師派遣検討委員会の活動
—2019年度当初の医師派遣—
- ・島根大学医学部における研修会・セミナー開催情報



島根大学医学部附属病院医師派遣検討委員会の活動 —2019年度当初の医師派遣—

病院長 いがわ みきお
井川 幹夫

病院長挨拶

平素より地域の医療機関の皆様方には大変お世話になっております。

当院は、これまで特定機能病院として高度急性期医療、がん医療の推進、再生医療の充実を図り、急性期医療の要となる救急医療につきましては、2016年度当初に設置した高度外傷センターを核として増員・強化した救命救急センター機能により県全域を対象とし、内因性疾患対応も充実した幅広い救急医療を実施しております。今年度の重点目標として、日本脳卒中学会認定の脳卒中センターの設置を掲げ、総合ハートセンター、ロボット支援手術推進センター、がんゲノム医療センターそれぞれが先進的な医療を実施し、島根県の医療水準の向上に貢献します。他には、MFICUの設置など周産期医療部門を拡充し、周産期母子医療センターとしての役割を果たします。アレルギーセンターが多様なアレルギー疾患に対する組織横断的な治療を行い、難病総合治療センターが先天性代謝異常に関連する検査などを含む包括的な診療を実施するなど、昨年度末に県から指定された拠点病院としての役割を拡大します。医療安全を更に推進する目的で、解剖実習用のご遺体を使用した手術手技のトレーニング、新たな手術手技の開発に役立つCadaver Surgical Training (CST) センターが稼働を開始します。また、小児、AYA (Adolescent and Young Adult) 世代向けにCLS (Child Life Specialist) の活動を支援する拠点を整備して、小児がんを含む包括的ながん医療を推進します。

国の定める「医師偏在指標」を活用して島根県が策定する「医師確保計画」に沿った医師派遣を実施します。当院の医師派遣検討委員会を中心として、しまね地域医療支援センター、島根県等が連携して透明性の高い医師派遣を検討します。また、医師の地域偏在解消に向け、地域枠等出身医師にあっては地域勤務の義務履行に配慮しつつ、地域特性を考慮した医師派遣を実行します。さらに関連病院と当院が医師派遣に関するクロスアポイントメント制度を運用して、医師派遣の円滑化、医師の研究及びキャリア形成支援を行います。

上記の病院運営を行い、島根県の地域医療への貢献を継続します。これからも当院が地域の中で果たすべき役割を十分認識し、地域に愛される病院となるために日々改善に努める所存ですので、ご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

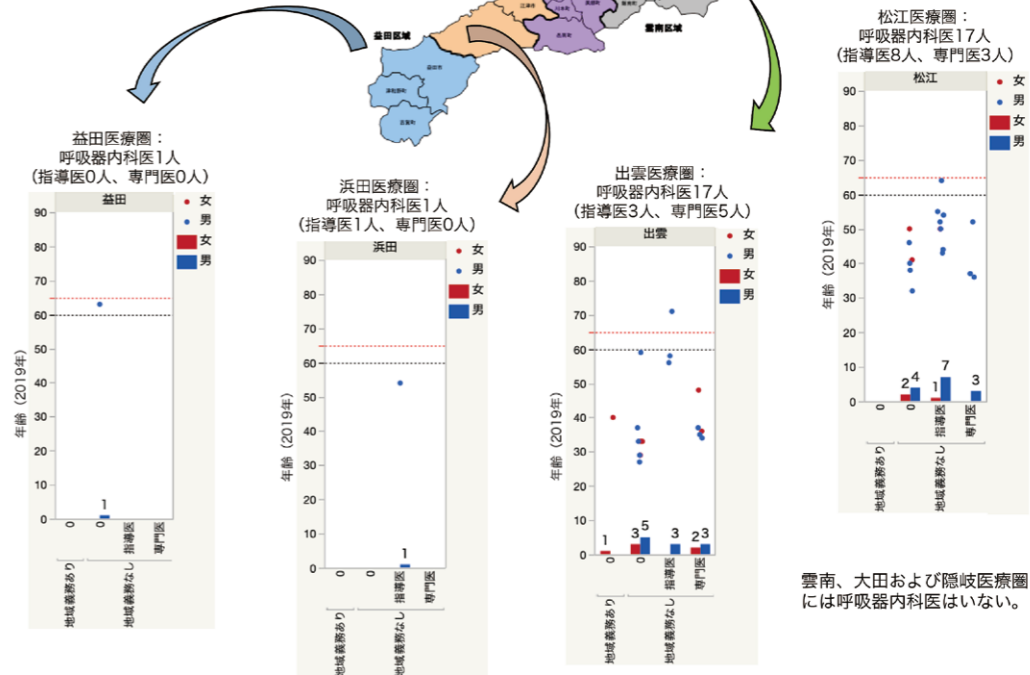
病院長 いがわ みきお
井川 幹夫

県内医療機関への医師派遣は、当院の重要な機能・役割であることは言うまでもありません。地域の医師需要、各診療科医師の適正配置に関するデータに基づき、透明性の高い医師派遣を実施するため、2015年に医師派遣検討委員会を設置し、毎月委員会を開催しています。推名データセンター長の協力を得て、国立大学病院管理会計システムHOMAS2を活用して算出した医師人件費、英語論文数などに基づいて推計した当院各科の適正医師数に今年度の入局者数を加えた診療科別の派遣可能医師数に基づいて、今年度当初の医師派遣を決定しました。常勤医師の派遣は増員が18名、補充が10名、交替が9名、研修が15名で、総計52名となります。今回の常勤医師派遣では、新専門医制度のプログラムによる専攻医研修が多いのが特徴で、今後もこの傾向は続くと思われま

す。現行の専攻医のシーリングは5都府県（東京都、神奈川県、愛知県、大阪府、福岡県）の14の基本領域で過去の専門医数により設定されていますが、3月22日に開催された医道審議会医師分科会医師専門研修部会でシーリングの見直しが提案され、医師の働き方改革を実行した場合に医師数が必要医師数を上回る都道府県の基本領域について上限を設定するとされています。都道府県別の医師偏在指標によると島根県は21位で医師少数県ではありませんが、シーリング設定の対象となった都道府県の基本領域ではいずれ医師少数県と連携プログラムを組むことが想定され、医師偏在の解消に専攻医の研修プログラムが活用される状況も考えられます。さらに地域枠等出身医師については、地域勤務の義務履行と専門医取得の両立を図る必要があり、一例として示しますが、医療圏別に呼吸器内科医の専門医、指導医及び地域勤務の義務を有する医師をマッピングして適正な医師配置に役立てています（図）。

これからも医師派遣検討委員会は、透明性の高い医師派遣を継続することにより、着実に医師の地域偏在の是正等に貢献できるよう努力する所存ですので、医療機関の皆様のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

県全体の呼吸器内科医36人
(呼吸器指導医12人、専門医8人)
- 島根県勤務医師実態調査 (平成30年12月20日) -





島大病院ニュース 2019年4月

ご報告

うさぎ保育所の卒園式について

3月15日(金)に第6回「卒園式」を行いました。

来賓の方々、保護者の皆様、在園児、職員が拍手で見守る中、少し緊張しながらも晴れやかな面持ちで11名の卒園児が入場し、厳かに開式しました。

保育証書授与では、一人ひとりが堂々と保育証書を受け取り、みんなの前で「小学校に行ってから頑張ること」を大きな声で発表した後、保護者の方に「今までありがとうございました。」と感謝の言葉とともに保育証書を手渡しました。

卒園児と在園児の「お別れのことは」と「送ることは」のやりとりでは、小さな赤ちゃんの頃から入所した子どもたちとのたくさんの思い出が胸をよぎり、感慨深いものがありました。院内保育所ということで、土日祝日を問わず、保育時間も長時間に及ぶこともありましたが、みんなの深い愛情のもと、頑張り屋さんで思いやりに溢れた子どもたちに育っています。小学校、中学校…大人になってもきっと輝き続けてくれることと思います。

これからも保護者の皆様、病院関係者の皆様と連携を取りながら、より良い保育所をめざしていきたいと思えます。



島大病院ニュース 2019年4月

ご報告

病院長表彰を実施しました

3月20日医学部大会議室において、病院長表彰の表彰式が行われました。

病院長表彰は、当院における経営改善や業務改善等運営面で特に顕著な貢献した職員等を表彰するもので、職員の勤務意欲の向上と病院改革の推進を目的としたものです。

具体的には、医療の質の向上、臨床研究の向上、人材の育成などへ貢献した者のほか、1年間の英語論文の執筆数の多い診療科が選ばれます。今年は内分泌代謝内科が受賞しました。

個人受賞者

- ・石川 みち子 (整形外科 事務職員):職員のQOLの向上
- ・吉廻 浩子 (眼科 医科医員):経営の改善、医療の質の向上
- ・原 克典 (眼科 助教):医療の質の向上、人材の育成
- ・糸賀 修也 (MEセンター 臨床工学技士長):医療の質の向上、医療の安全管理ほか
- ・中林 愛恵 (医療サービス課 診療情報管理士):医療の質の向上、臨床研究の向上
- ・野津 吉友 (検査部 副臨床検査技師長):医療の質の向上
- ・園山 珠美 (看護部 副看護部長):医療の質の向上、人材の育成
- ・飛田 博史 (肝臓内科 助教):治験の活性化

団体受賞者

● 急性期医療への尽力

- 藤原 公恵 (看護部 看護師長)
- 金築 きよ美 (看護部 看護師長)
- 板倉 千栄 (看護部 看護師長)
- 小川 雅子 (看護部 看護師長)

● キャンサーボードの運営

- 井上 政弥 (輸血部 助教)
- 森山 一郎 (先端がん治療センター 助教)
- 浅田 祥子 (医療サービス課 診療情報管理士)
- 田邊 誠 (医療サービス課 課長補佐)

● 治験の実施への貢献

- 村川 洋子 (膠原病内科 准教授)
- 近藤 正宏 (膠原病内科 講師)
- 森山 蘭子 (膠原病内科 助教)
- 本田 学 (膠原病内科 医科医員)

英語論文の執筆数の多い診療科

内分泌代謝内科



ご報告

島大病院ニュース

平成31年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告

島大病院ニュース

平成31年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2019年4月

ご報告

学生、大学院生、医員、助教等の 教育表彰を実施しました

3月13日医学部長室において、「ベストチューター賞」、「ベスト教育研修医賞」、「研修医の選ぶベスト指導医賞」、「ベスト看護教育賞」の表彰が行われました。

ベストチューター賞は、チュートリアル教育におけるチューターとして学生の教育効果の向上に大きく貢献した者を表彰するもので、チューターとして参加した学生、大学院生、医員、助教を対象として、チュートリアル教育での学生のチューター評価表を基に集計したスコアが高い3名が選ばれます。

ベスト指導医賞は、卒業臨床研修における指導医として研修医の指導に大きく貢献した者を表彰するもので、研修医を直接指導している大学院生、医員、助教を対象として、卒業2年内の研修医の投票により4名が選ばれます。

ベスト教育研修医賞は、臨床実習における教育研修医として学生の指導に大きく貢献した者を表彰するもので、臨床配属実習の指導をしている研修医を対象として、実習を行った学生の投票により3名が選ばれます。

ベスト看護教育賞は、本学医学部附属病院臨地実習における学生の指導に大きく貢献した病棟等を表彰するもので、看護教育を担当する病棟等が選ばれます。

受賞者は次の方々です。本田 学医員は、平成29年度に引き続いての受賞です。

①「ベストチューター賞」

飯田 圭輔 (医学科 6年)
坂本 裕人 (医学科 6年)
西木 正明 (医学科 6年)

②「ベスト教育研修医賞」

黒瀬 苑水
石田 晃子
原田 愛子

③「研修医の選ぶベスト指導医賞」

羽根田 泰宏 (小児科学講座 助教)
小池 昌弘 (精神科神経科 医員)
濱田 智津子 (検査部 医員)
本田 学 (膠原病内科 医員)

④「ベスト看護教育賞」

A病棟 5階、B病棟 7階



島大病院ニュース 2019年4月

ご報告

看護部長就任のごあいさつ

看護部長 たなか まなみ
田中 真美

このたび4月1日付で看護部長に就任しました田中です。

前任の神田真理子看護部長は、副院長兼看護部長として当院のために多くの尽力をされました。そのあとを引き受けることになり重責を感じておりますが、皆様のご指導、ご支援を頂きながら精進していきたいと思っております。

国の施策で、超高齢社会に向けた2025年問題に対する医療提供体制の見直し、「働き方改革を推進するための関係法規の整備に関する法律」に基づいた「働き方改革」がすすめられています。当院看護部としても、地域包括ケアシステム実現に向けた院内外での多職種との連携・協働によるシームレスな継続看護、在宅療養支援への推進により病院の看護職も地域で活躍することが求められます。また、働きやすい労働環境づくりが喫緊の課題と思っております。

「地域医療と先進医療が調和する大学病院」の病院理念、看護部の理念である「地域に信頼される質の高い看護の提供」にあるべき姿として、地域住民への安心な医療提供を目指していくため、多職種と連携を図り、より専門性の高い看護職の育成に取り組んでいきたいと思っております。病院の看護管理者として地域を見据え、変化し続ける医療環境や多様化する患者のニーズ、多様化するスタッフの特徴を活かした対応を行い、病院経営、人材確保、働きやすい組織づくりと広い視点で課題に取り組み任務を担ってまいりたいと思っております。

皆様のご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。



ご報告
島大病院ニュース

平成31年4月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告
島大病院ニュース

平成31年4月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2019年4月

ご報告



CSTセンター長就任のご挨拶

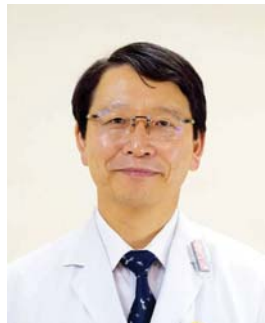
CSTセンター長 うちお ゆうじ
内尾 祐司

このたび、島根大学医学部附属病院Cadaver Surgical Training (CST) センターのセンター長を拝命しました内尾祐司でございます。

昨今、外科系手術は内視鏡・低侵襲手術が発達する一方で高難度となり、安全性を担保した、的確かつ正確な医療技術をもった次世代の外科医の養成が急務となっています。

これまで、次世代の習練は専ら臨床実地で行われてきましたが、安全性の観点から、海外で行われているようなご遺体を用いた手術トレーニングの有用性が議論されてきました。平成24年に日本外科学会と日本解剖学会は、合同で「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」を公表し、それまで学生実習や解剖学研究に限定されていた献体使用が医師及び歯科医師の手術手技の研修等にも可能となりました。

当院で設立したCSTセンターでは、本ガイドラインを遵守しながら、ご遺体を用いて高度で安全な医療技術の普及のための外科教育や、難治性疾患に対する新たな治療法の開発を行います。このような目的をご理解頂き、ご献体された皆様やご家族・ご遺族の方々に心より御礼申し上げますとともに、「立派な医師を育てたい」という皆様の崇高な志、ご高志に報いるべく、しっかりとCSTセンターの運営に取り組む所存です。どうかよろしくお願ひ申し上げます。



島大病院ニュース 2019年4月

ご報告



da Vinci (ダ・ヴィンチ:手術支援ロボット) 直腸手術はじめました

消化器・総合外科 副診療科長 やまもと てつ
山本 徹

ロボットを用いた手術について耳にしたことがある方も多いと思いますが、当院消化器外科大腸疾患外科グループでも直腸癌に対するロボット支援下の直腸手術を開始しました。

ロボットと言っても、すべて機械が手術をするわけではなく、「多関節手術用アーム」という器械を外科医が操作して手術をします。この手術の最大のメリットは、より繊細な手術ができるということです。今までは、腹腔鏡用の鉗子を使って手術をしていましたが、関節が一つしかないために動きが制限されてしまうことが問題でした。しかしながら、ロボットのアームは文字通り「多関節」ですので、今まで以上に操作に自由度が生まれます。それにより、今までできなかった操作が可能になりますので、細かな作業が可能となります。さらに、安全性の高い手術ができることも期待できます。

2019年1月からロボット支援直腸手術を開始し、3月までのところで3名の方に手術を行っておりますが、皆さん大きな合併症もなく元気に退院されております。島根県では現在のところ当院でのみ手術が可能です。該当する症例がございましたら、ぜひ当院消化器・総合外科外来にお問い合わせください。



問合せ先 消化器・総合外科外来 TEL: 0853-20-2384



島大病院ニュース

平成31年4月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース

平成31年4月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2019年4月

お知らせ



島大病院ニュース 2019年4月

お知らせ



膠原病治療の最近の動向と当科の試み

膠原病内科の治療は、以前は副腎皮質ステロイドが中心で、それで効果がなければ、次の手段(免疫抑制薬など)を追加するという治療が主流であったと思います。しかし、近年、各疾患における治療成績のエビデンスが蓄積され、疾患によっては、副腎皮質ステロイド単独で行うより最初から免疫抑制薬を組み合わせた方が、予後が良いことも明らかになり、エビデンスに基づいたガイドラインが作成され、そのガイドラインに基づいた治療をすることが求められるようになってきました。

また、21世紀に入り、関節リウマチに関しては、分子標的治療(抗体などの生物学的製剤や低分子化合物による分子標的治療等)が次々と開発され、痛みを和らげる治療から寛解/関節破壊をストップさせる治療へと飛躍的に進歩しました。

当科では、病診連携(リウマチネット)や市民講座に力を入れ、島根県全体に新しい治療を広め「関節破壊ストップ」を心がけています。また、この数年は、関節リウマチ以外の膠原病疾患でも標的治療薬が開発され、成果をあげるようになってきました。

更に、膠原病は妊娠可能年齢の女性が多く罹患する疾患ですが、妊娠時に使用可能な薬剤も明らかになってきました。患者さんに、病気になったことで多くのことを諦めないで欲しいとの思いから、これらの普及活動や他科の先生と協力し市民講座も開催しています。

膠原病内科 診療科長 むらかわ ようこ
村川 洋子



SHIMANEリウマチネット

島根県では、「基幹病院」と「かかりつけ医」が連携してリウマチ治療にあたっています



「基幹病院」「かかりつけ医」がお互いの長所をいかし、役割分担することで、より安心で質の高いリウマチ医療を提供します



呼吸器外科領域におけるロボット支援手術

呼吸器外科 診療科長 きしもと こうじ
岸本 晃司

肺癌に対して現在全国的に最も多く行われている手術は胸腔鏡下手術ですが、これは6cm~8cmの傷の小さな開胸創といつかのポート(孔)を開けてカメラ(胸腔鏡)や鉗子を入れて行います。ただ、手術操作のほとんどは小開胸創から行うが手術の実際で、胸腔鏡手術とはいっても技術的には従来の開胸手術と比べてさほど差はありません。

それに対して当院で行っている手術は、4つポートを開けてそこから胸腔鏡・鉗子を入れて手術操作をする特殊な技術となります。切除検体は穴からは出てこないでポートの内の一つを広げて出しますが、その広げ方も工夫してなるべく小さく目立たなくなるようにしています。当然、こちらの方法の方が手術侵襲が軽く、傷も目立たないので患者さんへの負担が少ないのですが、技術的に難しく習得に時間を要するために広く普及するには至っていません。

この技術的な差を埋めることが期待されているのがロボット支援手術です。胸腔鏡で行うのが難しい手技でもロボットの力を借りると容易にできるので技術習得までの期間が短くて済みます。手術技術の差を縮める便利な道具ということになりますが、さらに現在の胸腔鏡下手術ではできない複雑な手技を行うことが可能になります。現在のロボットを使った肺癌手術はポートが5個で、当院で行っている胸腔鏡下手術よりも一つ多いのですが、近い将来1つのポートのみで手術が行われるロボットが登場してくることが予想されます。この近未来の手術も見据えて、当院では呼吸器外科領域でも2018年にロボット支援手術を開始いたしました。

これからは胸腔鏡では行うことが困難で開胸で行っていたような手術でもロボットを使って小さな傷でできるようになると期待できます。

お知らせ

島大病院ニュース

平成31年4月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



お知らせ

島大病院ニュース

平成31年4月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2019年4月

ご報告



旧大社駅

T S K 本社鉄塔

病院玄関ホール

眼科外来

世界緑内障週間 「ライトアップinグリーン運動」 旧大社駅などをライトアップしました

眼科学講座 いわたに いくえ
岩谷 育栄

2019年3月10日(日)～16日(土)の世界緑内障週間に旧大社駅、山陰中央テレビ(TSK)本社鉄塔、および島根大学病院玄関ホール、眼科外来を緑内障のシンボルカラーであるグリーンにライトアップしました。

この運動は、中途失明原因第1位の緑内障という疾患の認知・理解と緑内障の発見のための受診の重要性を一般の方に広く知っていただくための啓発活動です。

3月10日と16日の2日間、グリーンにライトアップされた旧大社駅はとても幻想的で素敵でした。またこの期間毎夜点灯されたTSK本社鉄塔は夜空を貫くグリーンに目を引かれました。

この運動が緑内障の早期発見そして失明予防につながることを願って今後も続けていきたいと思っています。ご協力をいただいた山陰中央テレビ、出雲市、地元企業Doライト株式会社、他関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



島大病院ニュース 2019年4月

ご報告

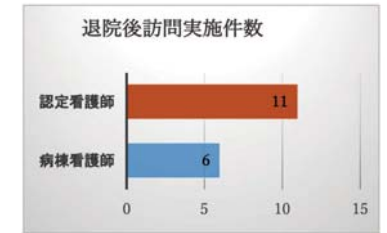


退院後訪問を始めています

看護部長 かんた まりこ
神田 真理子

高齢により医療依存度が高い患者さんが増加し、当院でも医療処置を継続したまま、退院となるケースが増加しています。入院中より患者さんの退院後の生活を見据えて自施設と地域と密接な連携を図り、地域とのつながりを切れ目のない在宅支援の取り組みが始まっています。今年度より本格的に退院患者さんに対して、専門・認定看護師、入院病棟看護職等が、訪問看護ステーションの看護師、保健師と一緒に自宅へ訪問する「退院後訪問」を開始いたしました。入院中にかかわった専門・認定看護師に加え病棟・外来の看護師や助産師が在宅主治医・訪問看護師等と連携を図り協力し自宅に訪問することは「再発や増悪のリスク軽減」や「在院日数の短縮」にもなり、在宅での療養を安心して継続できる在宅医療の充実につながります。

平成30年3月～平成31年1月



今後も、院内の看護にとどまらず、地域包括ケアシステム実現に向け、患者さん、ご家族の安心と看護の質を保証したケアの継続とともに、急性期病院としての病棟、外来、在宅の連携と継続看護在宅療養支援につなげるために専門性の高い専門・認定看護師が中心となり退院後訪問に積極的に取り組んでいきます。

退院後訪問後、患者さんの声から

- 退院前から自宅に見に来てもらうことがわかり安心して帰ることができた。
- 訪問してもらい、床ずれの悪くなった原因がわかり改善した。
- 訪問看護師さんと一緒にかかわり、在宅での痛みのコントロールができた。
- 退院後訪問してもらい育児や授乳方法などについて相談でき、不安の軽減になった。



島大病院ニュース

平成31年4月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース

平成31年4月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

